科目名	専門演習Ⅰ　　Seminar Ⅰ						
科目担当者	雨宮 敬博　　AMAMIYA Takahiro						
単位数	4	配当年次	2年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　演習］ 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	本科目は「ゼミナール」（「ゼミ」と略称されることが多い）であるので、通常の講義とは進め方が異なる。念のため、「ゼミナール」の辞書的意味を掲げておくと、これは、「大学で、小人数の学生が集まり、教師の指導の下に自ら研究し、発表・討論を行う形式の授業」（松村明編『大辞林 第 4 版』〔三省堂、2019 年〕1530 頁）のことである。それゆえ、各々の担当するテーマ・課題について文献を調べるなどまずは研究を行ってもらい、その成果をまとめたプリント（レジュメ）をメンバー全員に配付したうえでこれに基づいて報告（発表）してもらうとともに、その報告内容について全員で討論するという形式を基本とする。 具体的に取り組むテーマ・内容は、ゼミ生と協議しながら決定するので、「授業計画・内容」の欄に記されている予定は大幅な変更の可能性がある。						
授業の到達目標	本科目では、刑事法に関する諸問題を研究することを通して、人権感覚を身につけることを目的・目標とする。このことは、人権に関する「知識」を詰め込むとか、人権について「理論武装」するなどといった類のものでないことはもちろんである。そのようなものではなく、われわれが目指すのは、「他者の痛みを自己の痛みとして肌で感じることのできる感受性ないし感覚」を身につけることである。						

授業計画・内容				
	1	年間計画策定、ゼミ長・幹事等選出	16	後期のゼミ活動について
	2	模擬裁判 準備	17	刑事施設見学事前研究
	3	模擬裁判 冒頭手続、証拠調べ手続、弁論手続	18	刑事施設見学事前研究
	4	模擬裁判 判決言渡し、反省	19	刑事施設見学
	5	裁判傍聴	20	刑事施設が抱えている諸問題についての検討
	6	刑事手続をめぐる諸問題についての検討	21	学外講師講演事前研究
	7	ディベート	22	学外講師講演
	8	研究報告の準備	23	研究報告の準備
	9	研究報告（1～2 名）	24	研究報告（1～2 名）
	10	研究報告（1～2 名）	25	研究報告（1～2 名）
	11	研究報告（1～2 名）	26	研究報告（1～2 名）
	12	研究報告（1～2 名）	27	研究報告（1～2 名）
	13	研究報告（1～2 名）	28	研究報告（1～2 名）
	14	研究報告（1～2 名）	29	研究報告（1～2 名）
	15	研究報告（1～2 名）	30	研究報告（1～2 名）

授業外学修 (事前学修)	「授業の概要」の欄に記されている通り、研究報告の場合は相当の事前準備（研究）を要する。その他の場合ももちろん事前準備が欠かせない。例えば、ディベートの場合はチームごとに立論の方針や予想される相手チームの立論に対する反論のすり合わせなどが事前に必要となる。また、刑事施設見学事前研究の場合は、刑事政策の教科書や犯罪白書などを用いて刑事施設の現状や問題点などを事前に調べておく必要がある。その作業はけっして楽ではないかもしれないが、事前研究をしっかりと行うことによってこそ、当日の見学がより興味深いものとなり、より有意義な成果が得られるのである。水曜 3 限のゼミの時間自体は 90 分間であるが、この 90 分間をより充実したものとするためにも事前学修が必須であることは論を俟たない（毎週 2 時間程度）。
授業外学修 (事後学修)	毎回のゼミの際に指示する（毎週 2 時間程度）。

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	出席の状況、研究報告の内容、討論への参加の度合いによって評価する。 前期試験・後期試験として口頭試問を実施することもありうる。その場合はこれも勘案して評価・単位認定する。	100%	①

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合 　無断欠席や正当な理由のない欠席が一定回数以上ある場合は「不可」となる。 研究報告の際に、インターネットからいわゆるコピペを行った場合も、他の取組状況等のいかんにかかわらず、「不可」となる。
教科書	初回のゼミの際にゼミ生と相談したうえで決定
参考文献	適宜紹介
その他	